

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314

# かさおか



一年間を通しておちばを賑やかにしよう

1. 毎月一千人のおちばがえり
1. 五十万軒にをいがけとおさづけの取次

立教169年  
7月号

# 理の立つ信仰のあり方

六月月次祭 祭典講話 本部長 高井 猶久 先生

去る6月21日、大教会月次祭に、縁故ある高井猶久先生をお招きし、親しく、お話を頂戴いたしました。

長い間、おちばでおつとめくださった先生は、アフリカでの布教経験談なども交えて、「御守護をいただく元」について、現代のお道が抱える問題点を縦横に断ち斬り、今、私たちのあるべき心の歩み方を、平易に、かつ、示唆深くお示しくださいました。

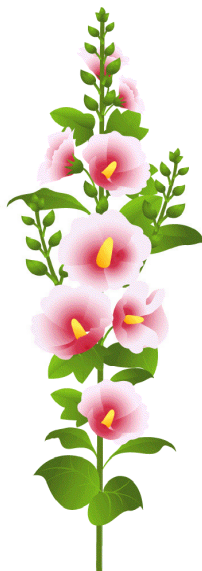
今後の笠岡(私たち自身)の発展を期して、ここに、ほぼ全文を掲載いたしますので、字間・行間に込められた先生のお心をしっかりと汲み取り学ばせていただきますよう。

## ■御守護をいただく元

私たちお互いにこのお道を信仰さしていただいております限りは、何かにつきまして親神様の御守護を求めて信仰しているはずであります。何もこのお道に限らなくても、人間というものは皆幸せを求めて生きています。ましてやこの親神様・教祖から教えられております御教えを自分の天分として布教に専従して通らせていただいているお互いよふぼくは、人様に喜んで貰いたいたすかって貰いたい一心で、そのためには我が苦労や我が苦しみを厭わず、むしろ自分の楽しみとして教祖のおひながたを見つめて、日々通らせていただいております。もりであります。

このお道が始まってから——つとめとさづけは道を通るお互いにとっては、絶対に欠くことのできない大事なことであり、あると教えられて以来——今日まで百

有余年、私たちは今も尚、それを信じて日々を通らせていただいているのであります。釈迦に説法あるいは屋上屋を架すことになるかもしれませんが、御守護をいただく元というものを一度考えてみたいと思っております。



## ●御教えの元を振り返る

教会や布教の現場にあっては、現実には身上や事情の相談が多い訳でございますから、勢い、そうしたことに對するお諭しや悟りの話が主流になることは多いと思うのであります。そのために原典に関する勉強は、ついつい後回しになってしまいがちであります。

代を重ね、長年信仰生活を営んでいる間に、熱心あまりに、知らず知らずの

うちに、教祖から教えられている御教えが少しずつずれてきているということも無きにもあらずであります。

私達お互いにもう一度この点を振り返ってみて、ずれているところはやはり直していかねければ、時間が経てば経つほどその幅は広がっていくのであります。

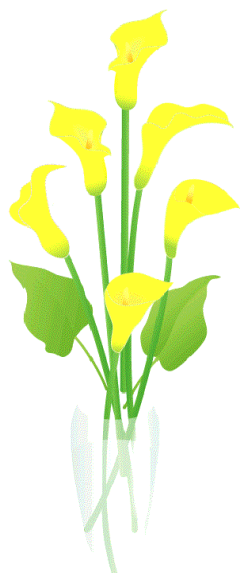
### ●御守護の元はおつとめ

この世は親神様の御支配の元に全てのものが成り立っていることは、皆様方充分ご承知のところでございます。親神様は全ての命あるものに対して「殖<sup>ふ</sup>える」という御守護をくださっているのです。その御守護のお陰で、全ての命あるものは永遠に繋がり、しかも生まれ更なる道中に進化するという御守護をいただいで末代に繋がる楽しみをお与えくださっているのであります。

そうした親神様のおはたらきが人間に

とって分かりやすいように、理解できるように、知恵の守護そしてまた文字の守護を成しくだされているのであります。現在の世界の全ての文明・医学・科学、その他諸々の発達は、人間が生まれ更わりを繰り返しながら、知恵の発達・文字の発達の御守護によって、今日のような結構な世の中にしていただいているのであります。

このおつとめは、親神様の自由の御守護によって人間をお創りくださったその守護の理・おはたらきの理を——私たち人間の心得違いを正させるために親神様がお与えになっている事情や身上をたすけるために——この世において、再現願うおつとめなのであります。



●万物の成り立つ根本はおつとめ  
月日親神様は、この世の元の神・実の神様であります。八柱の守護の理は、親神様が道具としておつかいになりましたその道具の理に与えられた神名でございます。

たいしょく天のみこと、良のおはたらき、親と子の胎縁を切る役割と息の終わりにあるいは思い切る決断の心のおはたらき、その他切ること一切のおはたらきを成しくございます。かといって、切れるべきものが切れなんだり、切れたら困ることも多々あるのであります。そこはやはり人間にとって都合のいいように、切れるべきものが切れ、繋がるものが繋がらなければなりません。

あるいはくもよみのみことのおはたらきは、人間の飲み食い出入りあるいは水気上げ下げ。あまり水分が多いと困りますし、ありすぎるとまた困る、多くても少なくとも困るのであります。また飲み

食い出入りに関しては、人間は自分の好みで食べるわけですから、好き嫌いがあって好きなものは食べるが嫌いなものは食べないということになりますと、その食べた物から摂取された栄養は消化されて必要な部分に送られるのでありますが、栄養が足りるところと不足するところが出てまいります。いわゆる栄養のバランスが崩れるのであります。そしてその崩れたところが痛むということに結果としてなってくるのであります。

またくにさづちのみことは、全てのつなぎ、慈悲の心のはたらき、その他金銭・縁談、よろずつなぎのおはたらきを成してくださいます。やさしい心・温かい心であります。

また月よみのみことは、男一の道具および全てつっぱる心のはたらき、立てつっぱり。この世の中には何かにつけてつっぱる方がございますが、あまりつっぱりすぎるとこれも困るのであります。

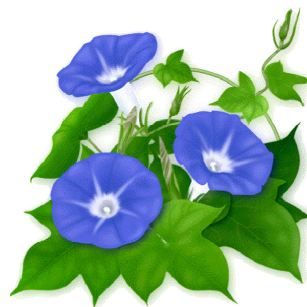
全てのものが立ってあるのも、このおはたらきに困るものであります。

かしこねのみことは、風あるいは息吹き分けのはたらき、言葉による人をたすける心のはたらき。暴風雨のように強い風であれば何もかも吹っ飛んでしまうわけですし、やはり人間にとってそよそよとした心地良い風でなくてはなりません。言葉遣いによって人を喜ばせることも、怒らせることもできるのであります。

またをふとのべのみことは、人間、子供生まれ出るときの親の胎内から子を引き出すおはたらき、よろず新芽を引き出すてくださる全てのものを引き出すはたらきをしてくださる。我々人間世界でも、よく「お引き立てをいただきまして」というようなことを言うわけですが、やはり相手に引き出していただいて人間はお互いに成り立っているのであります。

いざなぎのみこと・いざなみのみことは、真っ直ぐの心、一すじの心、神様よ

り定められた心のはたらきであります。このようにそれぞれの親神様から与えられたはたらきや役割あるいは性格というものを考えましたときに、それは、良きにつけ何かにつけて非常に個性の強いものであります。



しかしながら、親神様の傘下に入りますまいりますと親神様の御守護をいただければ(親神様の思召に叶えば)、それぞれの持っている個性が生かされる。

——ということを象徴されたおつとめであります。全てのものの成り立つ根本のおつとめなのであります。

これらの役割やはたらきは、全てぬくみ(をもたりのみこと様)・水気(くにとこ

たちのみこと様)の御守護があればこそ成り立っているのでありまして、このぬくみ・水気の御守護がなければ全ての存在は成り立たないのであります。

即ち、**月日親神様**の水の守護および人間の身の内の眼うるおいのおはたらき、素直な心、一すじ心のはたらき、あるいは、五分五分のぬくみ、火の御守護、温かい心、たすけたい心のはたらき、こうした親神様のおはたらきを戴かせていただくことによって、それぞれの個性が、充分に活かして使わしていただくことができるのであります。



### ●つとめ一条でみなたすかる

それぞれの親神様の思召に叶う行ないや心遣いをするときには、それぞれが前世から持たせていただいております。全てのものが活かされ、またそうした場が与わるか、そうした能力を見つけ出して貰える人に巡り逢うか、何れにいたしましても自分の人生の上にとって大きなチャンスになり大きな分岐点となって何もかも思うように事が進むのであります。逆に親神様の思召に添わない行ないや心遣いがございますと、何かにつけて上手くないか「思うようにならぬがいんねん」と聞かしていただきますように、人にも物にも金にも恵まれず、結果として身上や事情で苦しまなくてはならなくなる、時には命を落とすことにも繋がっていくのであります。またそういうときに限って「自分だけがなぜこんな苦勞をしなければならぬだろう」・「なぜこんな身上で苦しまなければならぬのだろ

う」と人一倍苦しみがいて神様を恨み、挙げ句の果てには自暴自棄になって世をすねてみたり自殺するといったことにも繋がっていくのであります。

神様のお言葉に、

しんちつが神の心にならねば

いかほど心つくしたるとも

十二号 134

と仰せの通り、我が身・我が家の中で事情や身上が起こってくれば、人間の知恵・力では治まらないということは皆様方ご自身がよくご承知のところであります。そんなときには、しっかり最寄りの教会に足を運ばしていただいて、訳分からんながらでもおつとめをするということが大事なことであります。一心不乱におつとめをすることによって、御守護をいただくことができますのであります。

人間は直ぐ何でも分かりたがる癖を持っているのであります。しかしながら人間は分かったからというてそれじゃ実

行するののかといえ、分かる分からんと実行するということは別問題であり、また、そういうことが分かるように、また、修養科があり、検定講習会があり、現在では基礎講座や三日講習会、その他諸々に開催される講習会が、おぢばでは、信者さん達にいろいろと教理を勉強する場をご用意くだされているのであります。

一口に申せば、一心不乱に親神様の思召に添う心を定めておつとめをつとめたら、それでよいのであります。

何もかも分かってくるのはうんと時間が経ってからであります。事情や身上の最中、何がどうなのか分からないのでありまして、そういうことが分かってくるのは、それこそ十五年・二十五年経ってからいろんなことが分かっていただのであります。

逆に申せば、おつとめをしなければ御守護はいただけないのであります。教祖は「素直が神の望み」・「人の笑いを神

が楽しむ」といろいろ仰せいただいておりますが、そのためにはやはり自分自身の癖を性分をとるということも大事なことなのであります。



### ■御守護をいただくためには

#### ●ぢば一条 神一条の精神で

(親神様の思召に添う心定め)

私たちは真剣に道を通っているつもりでも、心遣いが教祖のお心、即ち、神一条の精神から外れるときには、たとえそ

れが無意識な行ないであっても、どんな小さいことであっても、そのことは教祖にお喜びいただくことにはならないのであります。むしろ御心配をかけることになるのであります。そればかりか、銘々の身上や事情、あるいは教会をあく者の立場から言えば教会の事情になるということもありうるのであります。

そこにはやはりどうしても反省がなければなりません。思召に叶うた反省があつて、初めてぢばの理を聞き分けるということができてくるのであります。ぢばの理に添うということは、親神様の思召に添うということと同じであります。自分の考えや行ないがもっとも正しいという思い上がり、あるいは自信過剰な点では、お互いにこの際そういう点がないかどうか、一度自分の信仰チェックをしてみる必要もあるのではないかと思うのであります。

ぢばの理が、しっかり身につけていな

かったならば、たすけ一条の道は少しも進歩したことはないのでありまして——教会はお許しをいただきたいと願った者の心にお許しをいただきたいという、いわゆる元一日を常に心から忘れないように——治め向きの御守護をいただく必須条件なのであります。

時代が変わり建物が変わっても、人の心が変わってはならないのでありまして、そのことは親神様は、ひながたの中で教祖がとくとお教えくださっているところであります。

私たちの信じる親神様は人間創造の元の親である、都合のいいように解釈していることがないかどうかということを経々反省してみる必要もあるのではないかと——私たち信仰者の思案や行動は、教祖の教えに自分を合わせさせていただくことから始まっているのでありまして、教会が治まるのも治まらないのも、家庭が治まるのも治まらないのも、お互

いに身上や事情にお手入れやお知らせをいただくのもいただかないのも、それは皆その人その人の胸次第・心次第なのであって、常に心得なければならぬのは、私たちの心に教えを合わすということではなくて、この順序の違うことをしっかりと弁えなければならぬと思うのであります。



## ●いんねんを自覚して

さて、私たちの日々の生活を考えましたときに、親子・兄弟・夫婦、また諸々の人間関係、全部、お互い前生・前々生からの通り来たりの道によって、この組み合わせは神様がそういう組み合わせをつくってくださいているのでありまして、そういう人間生活、私たちの日々の生活は、一生の内に自分が直接関係を持つのは、肉親を始め諸々の人間関係全部数えてみましても百五十人か二百人そこそこあります。

その中には、「無くて七癖」と言われる性分を持った人間の集まりでありますから、いろんな癖性分の方がおられるのであります。でもそれは、お互いの前生・前々生からの通り来たりの道によって、そういう組み合わせは神様がつくっておられる。それはお互いそういう癖性分を、いんねんを切るように、神様がそういう人間関係を与えておってくださいるのであ

ります。

ところが人間は、常日頃何でもないと  
きには、いんねんがどうの何がどうのと  
分かったようなことを言うておりますけ  
れども、一度節を見せられたときには、  
常識を持ち出してあれやこれやお互い  
に批判をするということが多いのであり  
ます。言うなれば、常識という定規を持  
ち出して、上級やあるいは大教会に対し  
て「上級はこうあるべきだ」・「あああ  
るべきだ」・「ああでないといかん」・「こ  
うでないといかん」、また子供は子供で  
定規を持ち出して親に合わせ、子供はお  
互いその定規を親に合わす。どっちも  
が常識という定規をお互いに合わせおう  
て、そして顔と顔と付き合わせて毛穴に  
溜まっている埃・垢まで目に付いて、お  
互いに批判し合っている。お互いにそう  
いうことになれば、それこそ御守護いた  
だく目安というのは何処にもなくなつて  
いくのであります。

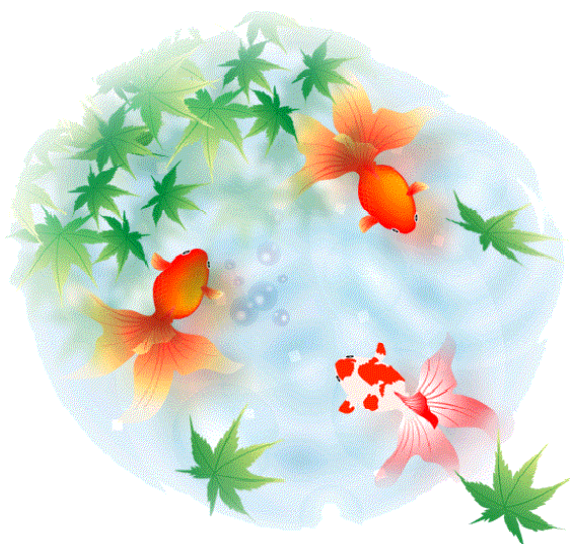
お互いにそこに見せられた姿を通し  
て、それを自分のいんねんとして、自分  
がどうさんげをしよう、お詫びをするか、  
そこからおたすけは始まるのでありま  
す。

### ●勇み立つて

特に現在ののような難しい現状では、そ  
れこそ神様のお話を素直に聞こうという  
人は極少ない、ないと言っても過言では  
ありません。しかしながら、一頃のもの  
に——それこそこのお道が爆発的に伸  
びた時代——あの当時のように、珍し  
い不思議が雨後の竹の子のごとくに現わ  
れてきたならどうなるか、それこそ問答  
無用になってくるのであります。そうい  
う御守護を、今こんな時代だからこそい  
ただかなけりやなりません。

そのためには、今の私たちに一番足ら  
んのが「がむしゃらさ」であります。  
このお道が爆発的に伸びました当時、

それこそ世間一般からの迫害干渉、今で  
は信じられないような反対攻撃があつた  
のであります。そんなときにこのお道は  
伸びたんです。なぜ伸びたかと言えば、  
珍しい不思議がどんどん現われてきたか  
ら伸びたんです。今こんな時代なんです。  
それこそ、珍しい不思議がどんどん現わ  
れてくる、そんな御守護をいただくにや  
りません。そのためには、がむしゃら  
におたすけするしかないんです。





## ●教えられたことを

## 教えられた通りに

そしてまたおさづけの取り次ぎ方も、  
教祖から教えられた通りにおさづけを取  
り次いでいないということも大きな問題  
点であります。

例えば私が料理のことを何も知らない  
としても、説明書に書いてある通りにす  
れば何とか口に入るものができる。とこ  
ろが五分でよいところを、十分やってみ  
たり、醤油入れにゃならんとところを砂糖  
を入れてみたり、塩を入れてみたりと、  
そういう勝手なことをするから喰おうに  
喰えんものができる。

言うなれば、教えられた通りにおさづ  
けを使わずに、失礼なことを言うようで  
すが、いい加減なことをしておいて、そ  
して「御守護がない、御守護がない」と、  
神様を恨んでいる。やはり教えられた通  
りにおさづけを使わしていたたくという  
ことも、これ一遍考え直して見なければ

ならん点ではなからうかと思うのであり  
ます。

仮席の中で、一番最初に出てくるお話  
が、時間を仕切つて願えと。一番長い仕  
切り方は三日三夜。一日二夜・一日一夜  
という願いがございます。ですからよ  
ふぼくとして相手の病状をよく聞いて、  
三日三夜にするか、二日二夜にするか、  
あるいは一回切りのおさづけでいいの  
か、そういう、よふぼくとして判断する。  
そして判断したら、それをやはり神様  
に申し上げる。柏手二つたたかしていた  
だきましたら、そこにもう神様、下がっ  
ておられるわけですから、その神様に「何  
町何番地、何の誰がし、何歳、何時から  
何処がどう悪い、こういうふう<sup>に</sup>に心定め  
させていただきました、ついてはこうい  
うふう<sup>に</sup>に御守護いただきたい」と、願  
いの筋をはっきり申し上げてそしてお取り  
次ぎする。

三日間のお願いをしても、なお徴をお

見せただけなきには、また三日。  
どんなに長くかかる場合でも三日、三日  
と、仕切りを付けて願うていくのであり  
ます。

そしてまた一人の人がおさづけをいた  
だく回数は六回までと決められておりま  
す。朝一回、昼一回、夕方一回、宵の口  
一回、夜中一回、朝方一回と、六回まで  
であります。自分が病人さんの側に付き  
添うておるからというて、のべつ幕なし  
にどんどんどんおさづけするとい  
うことは、それでは真実が届かんであり  
ます。

そしてまた目・耳・鼻・口・両手・両足と  
人間には九つの道具がありますけれど  
も、順序としては上から下へ、前から後  
ろ。下の方をしておいて、次に上とい  
うことのないようですね。そして目の場  
合は、目元から目尻へ。耳の場合は、頭  
の上まで手を持って行って、手を割って  
撫でさせていただく。両手・両足は別々

のはたらきを致しますので、右手は右手、左手は左手、右足は右足、左足は左足、別々にお取り次ぎ。教祖殿や神殿で見えておりましたが、頭の前から足の先まで一遍にザーツと撫でていた姿を、よく見受けるのであります。



そしてまた次に大事なものは、直肌に取り次ぎと聞かしていただいております。

このことも私はアフリカへ行つて布教して参りましたが、シャツをほとんどの方が着ておりませんので、自然に裸になつていらっしゃる感じで取り次いだわけ

ですが、マラリアなんていうのはもの凄い熱です、それが、撫でる間に、スーッと熱が下がっていくのが手で分かるんですよ。四十何度の熱がスーッと下がっていく。あるいは熱帯潰瘍という、血膿でズルズルになった人、そういう人もそれこそ川底を撫でているみたいですね、血膿でズルズルになっている。一月ほどして行つてみたら綺麗に皮が張っている。大きなカサブタがポコッと外れる。下に綺麗な皮が張っている。それはもうアツと驚くような御守護を随分お見せいただきました。

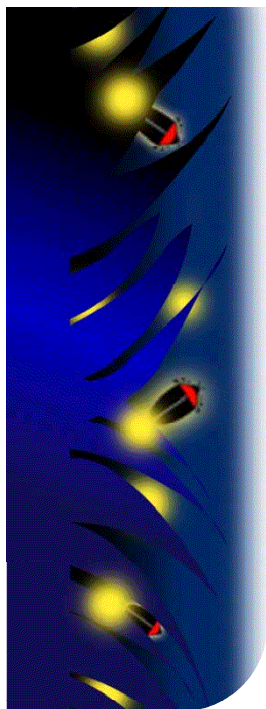
その当時それだけの経験をしておりながら、私自身おさづけの理というものは、理のものでありますから、なぜ直肌でないといかんのかなあ、という疑問は私自身ずうと思つていた。そして帰りましてから、丁度布教部長をやらしていただいているときに、胃癌を患いました。胃を四分の三取られたんです。そのときに「憩

の家」に入院しましたから、来てくださるいろんな先生方がおさづけしてください。この切り口というのはね、熱を持っているでしょう、冷たい手で触つて貰うたら、もの凄う気持ちええんですね。そしてまた、切り口というのは痒いんです。人によってはガサガサの手やら温かい手やらいろいろありますから、その手で撫でて貰うたら、もの凄う気持ちええんです。何れにしても気持ちええんです。それで私は納得いったんです。成る程「直肌」というのはこのことやなど。

やはりおさづけするときには、勿論そういう直肌を見せられない場所がありますので、そういうときには、「こういう場でございますから、服の上からお許しいただきたい」あるいは「寝巻きの上からお許しいただきたい」、ちゃんと神様に願わなければならぬということとです。神様にお許しをいただいて、服の上からお取り次ぎをする。それ以外は、

必ず直肌、何も素っ裸にならなくても、お腹ならお腹、腰なら腰へお取り次ぎさせていただいたらいいわけです。

そしてまた一人の人が頭痛い、胸痛い、腰痛いとか、病むところが二ヶ所あるいは三ヶ所ある方がございます。その方も、先ず頭、三回、三回、三回。それから次に頭から胸に移るときには、言上だけなんです。「次に胸に移らせていただきます」という言上だけで、手はたたかない。そして胸に三回、三回、三回。それを終わったら、「次に腰に移らせていただきます」と言うて、腰に三回、三回、三回。おさづけというのは、丁寧にお取り次ぎするということも、これ大事なポイントではないかと思うのであります。



## ■今なすべきこと

### ●とにかく動く

私も癌を患った後、心筋梗塞、それから脳梗塞もやりまして、どれ一つ取り上げて、本当に命と引き替えになっても仕方のないことでございましたが、何とか先祖さんの徳のお陰で、こうして元気に使っていたいております。

ですから、それぞれの家庭で、いろんな事情や身上が、むしろない方がおかしいんです。大なり小なりみんなあるはずなんです。それをお互い、それぞれ信仰する者が、それが自分にとっては丁度良いんだと、身上も事情も、姿形も何もかも自分にとっては丁度良いように神様がしてくださってるんだと、悲しみ

も腹立ちも、何もかも自分にとっで丁度良いように神様がお与えくださっている。そう思えば、あまり腹も立たん。何もかも自分に丁

度良いように神さんお与えくださっております。

ですから、しっかりおさづけ取り次ぎしていただいて、病気が治るとか治らん、そんなことを考えるよりも、数をたくさん取り次ぐようにしていただきたい。数をたくさん使わしていただいている間に、親神様が陰へ回って微妙なはたらきをなさる、そういうことがよく分かってまいります。そういうことが分かってきたら、それこそ意欲も出てまいりますし、自分の口から出る言葉に力もついてまいります。

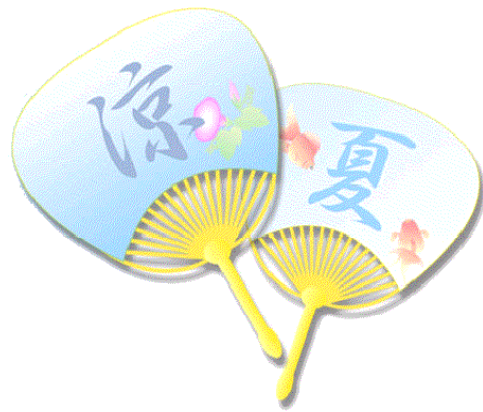
とにかくひのきしんをする。お道の間は先ず動くということ。ひのきしんする。そして後は、おさづけを取り次ぐ、おつとめする。この三つなんです。と言うて、三つとも百点でなくても、その人その人にとって精一杯であれば、それで充分神様は受け取ってくださるんです。

## ●をやの声に素直に

例えば、これだけの物を持ち上げようと思ったら、それだけの糸なら糸の太さが要るんですが、人間の考える精一杯というのは、八分どおりあるいは精々頑張っても九分どおりなんです。これでは、それだけの糸の太さだけでは上がらないです。

そこに親の声というものが助け船と同じであります。自分にとっては、「そんなこと言うたって、無理ですわ」と思えるような話、あるいは「おつくし、これだけしなさい——そんな、金もあらへんのにどないします」と。あるいは「この忙しいときにそんなことやってられませんわ」と。人間思案から言うたらそういうことなんです。そんなときにできるかできんか分からんけど、親の言うことなら、とにかくやらして貰おうという勢いですね、いわゆるがむしゃらです。半分やけくそでもええですわ。結果として、

ようそんなことでけたなあと、ようそんな身上たすかったなあと、いわゆる珍しい不思議がそこに結果として出てくるのであります。



上級・部内・理の親子、これだって神様が前生からのいんねんを見て、そういう縁を結んでおってくださるんです。肉親の親子だって勝手に頭の良い賢い子を選んで産むわけにいかないし、自分の子だからというて自分の思うように育てられない。そのようには育たないんです。

皆それぞれ前生からの通り来たりの道を見て、神様が良いように、良いように導いておってくださる。それを自分の考えで勝手にどうじゃ、こうじゃと……、それがたすからん元になっていくのであります。

今年、おぢばを賑やかにしようと真柱様から聞かせていただきましたが、できるかできんか、そんなこと関係なしや。とにかく一人一人がその気になってやれば、できるんです。要は、本人がやる気になるかならんか、ということだけであります。一人一人がその気になって、声をかけたら、それはできるんです。おぢばの声に添うということは、一生懸命に添おうと思っただけで、有形無形に神様がたすけてくださるんです、さしてくださるんです。

例えば四十年祭当時の倍化運動の時代、皆さん方余り経験ないかもわかりませんが、あの当時でも、本部から「教勢

倍化」と声が出た。皆その気になってやったから倍化できたんでしょ。

それを人間思案で「そんなこと言うたって、判だけ百個集めて教会にしたって、後、苦勞するで」と思ったところは、未だに分教会のままなんです。増えない。訳が分からんながらでも、とにかくおぢばからこんな声が出た、やらせて貰おうと思ってやったところは大教会になっている。それはもうハッキリしているんです。

### ●苦勞を先送りしない

ですから、みなさん方も、とにかくこんな時代だけに、不思議・珍しいをやったり、どんどん見せて貰わなきゃあかんのですから、そのためには、がむしゃらにおたすけしまくるとか、あるいはこんな時代ですから、それはお金がなかったら生活もできにくいでしょうけれども、それでもその気になったら、仕事やめて

でも、やろうと思うたらやれるんです、食べ物でもそこら中、何ぼでもありますし。

それはまあ、お金がなかったら不自由や。その苦勞を先送りにしていることが多いんじゃないでしょうか、特に若い人。今せにゃいかん苦勞を何じゃ、かんじやいうて、苦勞を先送りにしている。

人間は段々年とってくるんですから、年とったらその苦勞は倍増してくるんです。それこそ「ワラジ履いてでも苦勞せい」と教えて貰っているんですから、若い間に、エネルギーのどんどん湧いてくる間に、そういう苦勞をしておかなければ、年とってから、それこそ体が付いてこんようになってきたら、それこそどうしようもなくなってしまふのであります。

まあひとつ、特に若い方々、「ようし」というぐらいの気になって、ひとつ頑張って、おたすけしまくるといような、

日々に頑張っておつとめいただきたいと思えます。

どうぞ宜しゅうお願いいたします。

《文責 かさおか編集掛》



## 平成17年度 健康づくり標語・グループ 表彰授与式

と き：平成18年2月17日(金)  
と ころ：島根県民会館  
(健康長寿しまね推進会議)



「健康長寿しまね推進会議」が島根県内の小・中学校へ平成17年度「健康づくり標語」を募集したところ、出雲市大社町の荒木小学校5年生の木村紗英さん(瑞雲分教会少年会所属)が見事に「島根県知事賞」に選ばれました。

去る2月17日に島根県民会館での表彰授与式で表彰されました。

その標語は

1日のスイッチ入れる朝ごはん

でした。

紗英さんは「こどもおちばがえり」に1歳からず〜と参加しています。教えを守り、勉強もできる活発な少年会員です。

### 【11】“してあげたい心”で この世を満たしたい



あれが欲しい、これも欲しい、こうしてほしい、ああしてほしい。これはいわば「子心」。逆に、人

にこうしてあげたい、こうすれば喜んでもらえるだろうと、行えば、これは「親心」。してほしい心は時に不足を生みます。期待し、それがかなわないと、なんだ、あの人は、となるからです。だれもが周りの人に、わが子や愛する人に対するように、無条件に思いやっけてゆけば、もっとこの世は住み心地いいでしょう。多くの“してあげたい”を集めて、親心共同体が築ければいいなと、私たちは提言いたします。

天理教ホームページより

<http://www.tenrikyo.or.jp/ja/top.html>

準秀詠 東悠分教会長夫人 田林 美智子  
成って来る姿に思案理の世界

▼養徳社発行『陽気』誌七月号、「道柳」より転載  
▽今回の課題は「成」、選五十九句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されましたので転載させていただきます。おめでとうございます。



# 笠岡ワールドブラザーズ(野球チーム)

## 卓大会 決勝戦敗退

教会本部主催の行事に、「布教部全教  
野球大会」がある。

知る人ぞ知る行事であるが、毎年、各  
県を勝ち抜いた強豪チームで、10月27  
日よりおちばで全国大会が開かれる。  
我々の少し上の年代の笠岡のチームは  
この全国大会の常連チームだったそう  
だが、我々の年代に至っては全国大会  
に行くのは試練のことである。

それもそのはず人数集めに始まり、練習  
もほとんどすることなく地区大会に参  
加するのだから。

今年も然り。試合に10人集まったもの  
の毎年メンバーの高齢化と練習不足が  
たたり、惜しくも8-4で岡山大教会  
に惜敗?してしまった。例年なら「や  
はり今年もだめだったか」で終わるが、  
今年は昨年から呼びかけで新しく大  
学生のメンバーが二人、そして長年遠  
のいていたメンバーが復活してくれ、  
新チームのつもりで戦った。

悔しい思いも含めて敗戦後すぐベンチ  
で反省会をした。それでも「笑って頑  
張ろうと言える、笠岡らしいチームで  
良かったじゃないか」という意見がで  
て、来年にかける課題も見えた。

何事も、出た良い結果よ  
りも、それまでの様々な過  
程が楽しいのである。笠岡  
の野球チームも今始ったば  
かり、これからが楽しみで  
ある。弱くてもあすなる精  
神で来年の全国大会出場を  
夢見て来年に望みます。

なお、この野球を通して  
よふぼくになった方もおら  
れます。是非若い人達で野  
球を経験されている方、私  
も是非やってみたいと言  
う方がおられましたら、大教  
会上原志郎まで一方向さい。  
資格はよふぼくであれば、  
誰でも参加可能です。こん  
なところにこんな逸材があ  
る、という情報があれば一  
方下さい。

教区主催で、土砂降りの  
悪天候の中にも、一時晴れ  
渡った間に野球が出来て良  
かったです。ありがとうございました。  
(世話係 上原志郎)

### 第 7 8 5 期 修 養 科 募 集 要 項

**\*修養科期間**

立教169年9月1日～11月27日

**\*教 養 掛**

3ヶ月間	横 山 逸 郎	(大教会役員・東 城 分教会長)
1ヶ月目	福 島 泰 道	(瑞 北 分教会長)
2ヶ月目	内 海 安 子	(島 中 分教会長)
3ヶ月目	平 盛 秀 年	(福 昭 分教会長)

**\*募集要項**

- ・志願者は、9月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・8月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、11月29日の昼食後に解散。

**\*教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

**\*参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

**\*携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

**\*服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

## 「こどもおぢばがえり」について

- \* 詰所へ到着されたら  
宿泊者と食事の数を必ず事務所に報告ください(変更の有無に関わらず)。  
大教会長さまより帰参の感謝状と記念品をお渡し頂きます(帰参した日の午後5時より、教会の責任者と少年会員の代表者は事務所前の応接室にお越しください)。
- \* おやさとパレード見学について  
交通安全、周辺道路の交通事情、騒音迷惑などにより、大型バスは運行禁止とします。ご理解ください(中型バス、マイクロバスについては運行して頂いて結構ですが、なるべく歩いて参加して下さい)。
- \* 食事について
  - ・ 時 間 夕食の時間は午後5時から7時までをお願いします。午後7時以降の食事はご遠慮ください(保健所からの指導がありました)。
  - ・ 申し込み 食事をされる2日前の夕方までに詰所へご連絡ください。なお、食数の変更は、減らすよりも増やす方が簡単ですので、人数がはっきりしないときは、少なめに申し込み、出発当日に正確な数を連絡してください。
  - ・ 弁当(業者) 食事をされる2日前の午前8時まで、詰所へご連絡ください。なお、変更はできません(業者のチラシは希望者にお渡しします)。
- \* 水について  
詰所では絶対に生水は飲まないようにしてください。お茶を用意しております。  
水は親神様からのお与えです。粗末にしないように指導して下さい。
- \* 入浴について  
風呂場では、暴れたり、騒いだり、湯に潜ったりしないよう引率者は子供達といっしょに入って、入浴のマナーの手本を示してください(水不足のうえから特に水を大切に使うよう指導して下さい)。
- \* おつとめについて  
詰所では毎朝6時からおつとめの放送をします。各部屋でそれに合わせておつとめをしてください。
- \* ラジオ体操について  
毎朝、おつとめにつづいて、ラジオ体操の放送をします。廊下、玄関前などで体操をしてください(カードには引率者の印鑑を押してください)。
- \* 目標(めどう)について  
期間中、詰所内に目標を掲示します。実行するよう子供達に手本を示してください。

---

## 「こどもおぢばがえり」期間中の詰所行事

### ◎わかぎひのきしん

- \* 期間中、帰参した中学生に食堂ひのきしんをしていただきます(毎朝6時からの育成放送をお聞きください)。

### ◎模擬店

- \* 開 催 日 7月28日(金)・30日(日)・8月1日(火)・3日(木)  
(いずれも午後6時から7時まで)
- \* 内 容 たこ焼き、フライドポテト、かき氷、スーパーボールすくい、輪投げ  
(いずれもチケット一枚・50円)
- \* チケット 4枚綴り(200円)を開催日の午後5時半から1階渡り廊下で頒布。

### ◎パターゴルフ

- \* 模擬店開催日の午後6時から7時まで2階渡り廊下にて実施(無料)。

### ◎ビデオ上映

- \* 7月26日から8月4日までの間、毎晩午後7時半から9時まで修練室(北棟2階西)にて上映(無料)。

### ◎クイズ

- \* 7月26日から8月4日までの間、詰所内各処(廊下、階段、おどり場など)に展示。小学生低学年、高学年・中学生コース。解答者の中から抽選で景品をプレゼント。
-



## 六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「このみちをはやくみとふてせきこんださあこれからハよふきつくめや」と慈しみ深い親心のまに  
 くこの世と人間をお創造下さりお育て下さるばかりでなく旬刻限の到来を待ってこの世の表にお現れになり万  
 一切を明かされると共に不思議自由の御守護を現し実の親であることの証を示して御恩報じを願う真実の人をお  
 引き寄せ下さいまして陽気ぐらしへ向かうたすけ一条のこの道をおつけ下さいました事は誠に有難く勿体ない極  
 みでございます 私共はかしまのかりものの御教えを心に湛えて日々は喜びと感謝一杯の心で通らせて頂いてお  
 ります 加えてたんの心の心を磨きつつどんな中も喜びに変えて御恩報じの思いを強め朝夕に御礼申し上げます  
 共にたすけ一条の御用の上に勤め励まして頂いております その中にも今日の吉日は六月の月次祭を執り行う日  
 柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心を一つに睦び合って明るく陽気に勇んで座りづとめてを  
 どりをつとめさせて頂きます 御前には旬々の喜びを胸に今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共  
 にお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお  
 願い申し上げます

さて今世上では経済を始め心の面でも二極化が進んでいるように思われます貧富の格差が益々広がりを見せ人  
 の心も荒廃が進みより非道さを増しております まさしく「たんく」とをんかかさなりそのゆへハきゅばとみへ  
 るみちがあるから」のお言葉通り人間としての心を失いつつあるように思えてなりません そんな世上の風潮に  
 流されることなく道の子供達は教祖年祭の年を意義あらしめんものと勇み立ち一年間を通しておぢばが賑やかに  
 なるようににをいがけおたすけにと成人の歩みを進めさせて頂いておりますが只おぢばにお誘いするだけでなく  
 少しでも喜びと感謝の心を持って頂き御恩報じする心になるまで丹精させて頂く所存でございます 又本日はお  
 ぢばより本部長高井猶久先生にお越し頂いております 後程親しくお話を聞かせて頂いて今後の成人の歩みの糧  
 にさせて頂く所存でございます 更にはまた目前にせまったこともおぢばがえり十万人増員に向け尚一層心を奮  
 い立たせ募集に励ませて頂きます

何卒親神様には皆の親への御恩報じ一筋の真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守  
 護を賜り一列子供が真の親を知り一列兄弟の理に目覚めて互いに助け合う陽気ぐらしの世の状に一日も早くお導  
 き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

## ・原・稿・募・集・

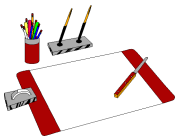
内 容

①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、  
 ③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々  
 1000字前後(800字~1200字)  
 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。  
 俳句等は1句からでも結構です。

字 数

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。  
 郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377  
 F A X：0865-66-1314  
 メール：[tenkasa@kcv.ne.jp](mailto:tenkasa@kcv.ne.jp)  
 尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。





学生担当 委員会	少年会	青年会	婦人会	育成掛	教養掛	かさおか 編集掛	輸送掛	詰所掛	危険物取扱責任者	車両管理責任者	
<p>委員長 吉岡誠一郎、 副委員長 山野弘実、</p> <p>瀬藤友昭、 門脇元教、 本多正悟、 仙田公男、 下田誠輝、 武内清和、 山田睦浩、 矢田哲一、</p>	<p>団長 高島伸雄、 副団長 森本忠善、 副団長 渡邊孝信、 竹邊隆夫、 室井正仁、 吉岡貞彦、 猪原啓介、 高島真彦、</p>	<p>委員長 浅野明教、 副委員長 森本正典、 副委員長 本多正悟、 副委員長 中村真人、 内海史郎、 藤本晴司、 秀平元一、 門脇裕教、</p>	<p>支部長 上原きよ子、 常任委員 田中まさみ、 門脇郁子、 上原順子、 岡村満子、 岡崎豊子、 武内正美、 門脇加津、</p>	<p>主任 山野弘実、 副主任 杉原博之、 今川昌彦、 中村義太郎、 高木昭祥、 横山逸郎、 上原浩、 田中隆之、</p>	<p>主任 吉岡誠一郎、 副主任 今川昌彦、 高木昭祥、 藤井宣人、 秀平善敬、 門脇裕教、 吉岡輝昭、 西村彦一、 佐藤憲美、</p>	<p>主任 河原節喜、 副主任 杉原博之、 岡崎真一、 中村義太郎、 枝廣隆文、 吉岡輝昭、 西村彦一、 佐藤憲美、</p>	<p>主任 吉岡誠一郎、 上原澄雄、 上原浩、 吉岡松枝、 武内清和、 上原珠世、 武内まさみ、</p>	<p>客長 今川佐智子、 岡崎和美、 上原千枝子、 高木孝子、 横山小智栄、 門脇加津、 田中つかさ、</p>	<p>食堂員 岡崎和美、 内海安子、 今川佐智子、 岡本弘子、 中村理恵、 浅野はるえ、 今川直子、</p>	<p>主任 岡崎和美、 内海安子、 今川佐智子、 岡本弘子、 中村理恵、 浅野はるえ、 今川直子、</p>	<p>中村義太郎、 今川昌彦、 今川直子、</p>

◎教祖百二十年祭登殿参拝(六月)

久松	中村	剛
瑞雲	西村	彦一
海潮川	高島	寛
弓ヶ濱	森川	美雪
米美	三代	信行
伯仙	川上	道美
照雲	雜賀	賀明
輝伯	雜賀	元生
松都	須山	克子
樺島	岩崎	光生
出雲川津	仙田	勉
天場山	仙田	公男
吳中	下田	章
大江橋	村川	和司
品治	渡邊	眞次
久福	佐藤	憲美
久津	小池	宏一
錦ヶ原	池平	武司
神驛	渡邊	孝信

◎第七八〇期修養科一期講師

自 立教169年4月1日
至 立教169年6月27日
八 尋 矢田 哲一
雲 東 三代 温生

◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教169年7月14日終講  
 三郡 山岡 啓訓

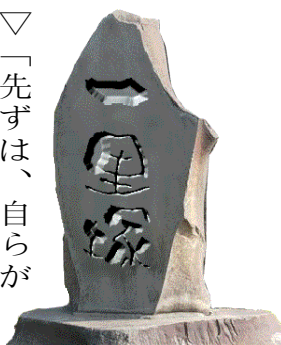
**人づくり集計 (上半期)**

初 席	71名
おさづけの理拝戴	26名
修養科修了	16名
検定講習前期修了	12名
検定講習後期修了	1名

【訂正とお詫び】

『かさおか』誌第45巻第6号において、「名言&迷言(編集後記)」の冒頭、「全教一斉ひのきしんデー」についての記述がございましたが、実施日の記載に誤りがありましたので、左のように訂正し、不備の段、お詫びいたします。

誤) 去る四月二十六日、全教一斉ひのきしんデー。  
 正) 去る四月二十九日、全教一斉ひのきしんデー。



▽「先ずは、自らが教えに基づく生き方を日々実行し——」私達一行は論達第二号の中の一節を車中で声高らかに繰り返し唱和し、信仰者としての自覚、品位を決して忘れる事なく行動しよう、と、固く誓い合い、とある場所へと向かった。それは、遠くに水平線を望む小さな漁港の中にあった。  
 満面笑を浮かべ、全身から湧き出るフェロモンに包まれた、とある方が私達を迎えてくれた。正に地上の楽園がドアの向こうに広がっていた。

いたのに——。冷静な私はチョット恰好を付け、グラス片手に周囲を見渡した。皆、いい顔している(これが目に見えぬ何者かから解放された本当の顔だろう)。  
 が、見てしまったのだ。その中の一つを。目はうつろ、意味なくニヤニヤしながらも懸命に踊っている姿を。これが眼光鋭く、立板に水の如くいつも堂々と教話をされる某先生か。今後、お話を聞く時は後ろにこの顔が浮かぶだろう。

何はともあれ、夢見ごちちの中で竜宮城での一時は幕を閉じたのだ。  
 ▽「教会に参拝しましょう」「日参させて頂きましょう」——よく言うパターンである。  
 本当に参拝しなくては——何でも参拝をしたい——。私のお預かりしている教会はそんな教会だろうか。参拝すれば気が重く、足が遠く教会ではなからうか。  
 先日、とある場所で、とある方のお持成を受け、立場は違え、教会としてまた教会長としての心構えの一端を感じたような次第です。(き)